

令和7年度 第2回大津市科学館運営協議会 議事録要旨

令和7年1月23日（木）15：10～

1 挨拶

2 会長挨拶

3 協議及び質疑

- (1) 令和6年度 事業報告について
- (2) 大津市生涯学習センター条例の一部を改正する条例の制定について
(科学館プラネタリウム、展示ホールの観覧料の改定)
- (3) プラネタリウム更新に向けて
(デジタル田園都市国家構想交付金申請の経過報告)
- (4) 令和7年度 事業計画について
- (5) その他

会長

ご質問やご意見ございましたらお願いします。
一人1回以上発言してもらえたらと思います。

委員

やはり「かがくのこ」移動教室が気になります。例えば、「あなたの学校はバス使えないかもしれませんよ。」と言われても、公共交通機関では難しいから行けないということになると思います。学校に送られる調査の中には、「あなたの学校はバス使えないかもしれませんよ。」という内容も入っているのでしょうか？

事務局

距離的な事で、公共交通機関で来ることが不可能という学校があります。その中でも、比較的駅に近い学校で絞っていき、「いくつか公共交通機関に変えてもらわないといけない状況です。」ということを伝えて、ご理解を得ていかないといけないということです。

委員

では、学校が子どもたちに科学の力をつけさせたいから行きたいけれど、バスではなく電車ならやっぱり諦めますということになるかもしれないということですか？

事務局

残念ながら、可能性はあります。ですが、科学館としても、こちらに来て学んでもらいたいという気持ちがありますので、何とか公共交通機関で来てもらいたいと伝えますが、どうしても厳しいとなると諦めてもらうしかないのかなと思います。

委員

科学館の方がこれだけ熱心に考えておられるかということはよく伝わってきます。遠方の学区にお住まいの場合、もしかしたら、子どもたちにとっては人生に1度きりのプラネタリウムになるかもしれない。熱心な家なら連れてきてもらえるが、行きたくても子どもたちだけではいけないところもある。プラネタリウムや、新しくできた琵琶湖ウォッチングも体験させてあげたい。やっぱり、多くの子どもたちに科学というものを広く浅くかもしれないが、みんなに体験してほしいということを一市民として本当に強くそう思います。もしも、自分の子や孫がかがくのこに行けない学校に通っていたとしたら本当に悲しいです。事務局に「バスのお金をつけて」と言ってもどうにもならないと思いますし、いろんな方の意向などがあるのだと思いますが、やっぱりその点はどうかならないものかと思います。憤慨しております。現場の先生方はその点どう思っておられるのか聞きたいです。

事務局

今年度から子どもたちを対象に事後アンケートをとっています。「学べたか」「楽しめたか」「興味をもつことができたか」ということを子どもたち自身に答えてもらっています。その結果としては、99%の児童が満足しています。やはり、わずかに「楽しくなかった」という子もいますが、本当に多くの児童に「来てよかった」と思ってもらっています。全ての子にとって学びの定着に繋がっているかは分かりませんが、「学びたいな」「もっと知りたいな」というきっかけをつくる良い取り組みだと私たちも思っているので、委員がおっしゃったように、大津の子全員にそういったきっかけを作りたいと、科学館としても思っています。

委員

中学校籍なので、「かがくのこ」について初めて話を聞き、びっくりしました。そして懸念を抱きました。今回、選択制とした結果、多くの学校が参加希望をしたわけですが、今後それが、どんどん希望が少なくなり、縮小化していくのではないかと心配になりました。学校現場としても、働き方改革で学校行事を精選していく中で、選択制とした結果、いずれ無くす対象になっていってしまうと思う。本当に心配です。

委員

本校でも、来年度どうしようかという会議がもたれました。本校の教員は「参加する」に意

欲的です。やはり、教室ではできない経験をさせてあげたいという思いをもっています。確かに、本校は駅までが近いので、バスでなく電車でできないかとも考えられるのですが、遠い学校からすると、また違うのだらうと思います。学校全体で考えていても、行事の見直しというのはよく言われています。これから、かがくのこに参加しないという学校も出てくると思うので、私も自分の子の学校がかがくのこに行けないとなると、辛いです。貸切バスの遠足も年に1回までと縮小傾向にあります。どんどん減ってきている、校外学習の内の一つになってしまうのではないかと心配です。

委員

本校でも、はじめに通知がきたときには「希望制になったのか」と驚いていました。4～6年生の中で参加する学年も考えるということで、職員でたくさん協議を重ねました。今年は参加するとしたのですが、今後どうなっていくのかなとは思っていました。再調査するということですが、学校現場では、12月には来年度の行事予定を組んでいます。予算の都合があるのは分かるのですが、学校側としては、もっと早く葛川からの通知と同じ頃に、日程などを教えてほしいとは思っています。そういった情報が早く入ることで、行事予定に優先的に入れようとする学校は増えるのではないかと思います。

事務局

おっしゃる通りなのですが、今年度は予算のことなど例年通りにいかないことが多々あり、各学校にはご迷惑をおかけしているというのは重々承知しております。小学校長会でも「なかなか話を進めていけていません」ということをお伝えしておりますが、理解してもらえていないところもあると思います。今年度はこういった時期での通知となってしまったのですが、来年度以降は軌道に乗れるなら、これまで通りの10月や11月には各学校に通知できるようにしていきたいと思います。

また、かがくのこが無くなっていくのではないかという懸念をもっているということについてです。予算内で実施できる形で来年度は実施することになりますが、「かがくのこ」事業は大津の子どもたちにとって価値のあるものだとして広めていけるよう努力し、「かがくのこ」の価値をより多くの方に認めてもらい、今後またこれまでと同じように大津の子どもたち全員に安心して経験させることができるようにしていきたいと思っています。

委員

かがくのこの現状がよくわかりました。運営協議会からも「継続を望む」という声をあげ、それを議事録にも明記し、科学館を後押しすることが大事だとみなさんの話を聞いて思いました。また、それぞれの学校の先生方のサポートがないと動かないことだと思います。先生方からも現場の声として「絶対に継続させていきたい」ということを発信していったほしいと思います。できる範囲で、強い思いで、それぞれの場で声をあげていきたいですね。

事務局

そもそも、この議論が出てきたのは、「漫然とやっているのではないか。子どもたちにとってどうなのかというのは考えているのか。ちゃんと、見直さないといけない。」という話が昨年度に出たのが始まりです。「今までやってきたから、これからもやるというのは違う。子どもがこれから減っていくことや、財政状況も意識しないといけない。学校現場が忙しいという中で、どうしてもいかなあかんのか。」ということも言われました。また、来年度については「国スポ・障スポ、万博がある中、本当に行く必要があるのか考えているのか」という指摘もありました。しかも社会全体的に、バスの確保も難しい時代になっている。金額もあがっている。バスの運転手の確保は、バス会社も苦勞しているところ。バスはあるけど、運転手がいらないということもあります。これについては、我々もどうすることもできません。こういったこともあり、冒頭のような話があったとも思います。「やはり、学校の裁量というのはあるべき、各学校でも考えないといけない」というのが、執行部の考えです。ただ、科学館の立場で話をしますと、大津の子たちには、全員に同じ教育の機会を与えるべきと考えています。参加する学校もあれば、参加しない学校もあるというのは不平等だと思っています。そこは、同じように扱わないといけないというのは我々の意見です。ここをどう説得していくかというのは難しいところです。我々としては、全く予算がついていないわけではないので、知恵を絞りながら、希望する学校については、来れるようにしたいと考えています。ただ、この議論を毎年毎年するのは、本当にしんどい。やはり、そこは来年度しっかり整理した上で、この事業の価値をしっかりと示していかななくてはならないと思っています。我々も精一杯やったのですが、なかなか伝わらないわけです。先ほど話にありましたが、多くの子が満足感を得ています。ですが、「良くなかった」という子の声は大きくなりがちです。でも、「良かった」という声が大きくなっていくよう、1年間は試練の年かもしれませんが、我々としても頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

会長

他のことで何かあるかたはおられますか？

委員

今後の課題を見ると、「わくわくサイエンスの工夫」ということが書かれています。私もわくわくサイエンスをやらせてもらっている側として、日々の学校業務もしながらなので、なかなか新ネタがなかなかできません。これを見たときに私自身も頑張らないといけないなと思いました。ただ、科学館としてわくわくサイエンスの工夫とは、どういったことをお考えなのか教えていただきたいです。

事務局

いつもお忙しい中実演していただいて、ありがとうございます。わくわくサイエンスもリピーターの方がいます。一度「あー、これ前やったわ」と言っている子がいました。しかし、ほとんどの方が初めてということなので、同じテーマではいけないなどは全く思っておりません。講師の方に来ていただくのは月1回となりますので、同じテーマでも全く問題ないと思っています。バージョンアップしていってもらえると、前に参加したことがある子にとっても発見があると思うので、より良いかとも思います。また、これまでお世話になっていた講師の方に来ていただくことが難しくなったり、新たに「やりたい」と言ってくれる方がいたり、そういった新陳代謝のことも考えての更新です。この事業は、講師の方の熱意に支えられていますので、「こんなことやってみたい」ということがあれば、材料費なども含め、相談してもらえたらと思いますので、どうぞこれからもよろしくお願い致します。

委員

「はじめてのプラネタリウム」が好評と聞き、とても良い取り組みだと思っていました。また、展示ホールの無料公開も同時で開催ということですが、実施するにあたって、特別な配慮、工夫されているところはありますか？また、ターゲットを広げ、大人にも目を向けるということもありましたが、仕事が終わった時間帯などに、大人限定の取り組みをやると、「大津市科学館っておもしろいところだ」ということで、評判になるのではないかと。大人の方も科学に関心のある方はたくさんおられると思いますので、年に1・2回でも、やってみただけたらと思いました。

事務局

「はじめてのプラネタリウム」についてですが、通常のプラネタリウムでは、泣かれたら遠慮して退出してもらっていることもあるのですが、お互いに「泣いてもいいよ」と思えるようにしたり、暗くはなりますが、扉も常に開けているので、入退場を自由にしていただけるようにしたりしています。ベビーカー置き場として、実験室の開放もしています。展示ホールにもベビーカーを置けるようにしています。また、1日無料にすることで、午前中に来て、昼ごはんを食べてからもう一度来館してもらえというようにもしています。「泣いたり、騒いだりしてごめんなさい。」という気持ちにならなくてもいいようにということを考えているというのが、工夫かと思います。

大人限定の何かというのは、本当に参考になります。ありがとうございます。大人向けのプラネタリウムとして、何かそういうことができたらいいなとは、思っています。他館では、勤労感謝の日などに、日頃働いておられる方にぜひ一度プラネタリウムに来ていただきたいと、「熟睡プラ寝たリウム」という取り組みをしているところもあります。静かな音楽を聴いたり、解説のトーンもおさえたり、寝たくなるような雰囲気をつくって「どうぞ寝てください」というようなものです。まだ、具体案としては決まっていますが、そういったことを当館でもやってみたいなと思っています。そして、先程、全国プラネタリウム協議会の

調査結果を発表しましたが、全国1位、2位というところは、だいたい平日の夕方にも投影をしています。毎日でなくても、金曜日の夕方、仕事終わりの時間に投影しているところが多いです。当館としても、毎日というのが難しくても、そういったことをやりたいと思っている。何年か前には、クリスマスの時期などに、夕方特別投影というのもやっていたので、できないことは無いので考えていこうと思います。

委員

プラネタリウムというのは、寝る環境としてすごく良いなと思っておりました。他の館で、そういった取り組みがあると聞いて驚きました。もしかしたら、後にブログか何かで「爆睡できるプラネタリウムランキング」などを作るような人が出てきたりしたら、話題にもなりそうですね。

あと、報告を聞いていると、どれもプロセスや結果だけで、分析がないということを感じました。なぜ全国2位をキープできているのか、良いところ悪いところを分析すれば、強みとなる良いところを伸ばしていける。どうすればいいかという、来館者によるフィードバックで市民の思いを集めると良いと思います。そんな大層な事を考えなくても、QRコードで簡単にできます。答えてくれた人にはプレゼントというようなことでもいいかもしれません。そこで集めた声を元に、よりよい取り組みに繋げることができ、観覧者数が増えていくということにもなるのではないのでしょうか。

委員

中にいると「ここの良さ」というのを感じにくいです。客観的に見ていただいた外からの意見を聞けるのは確かにとても良いですね。

委員

「はじめてのプラネタリウム」となると未就園児がいっぱいいるんだろうなと思っていました。当園は科学館に近いということもありますので、園でも周知していきたいと感じました。周知の仕方ですが、大津市で「子育てタウン」というアプリがあります。登録しているとおすすめのイベントのお知らせがプッシュ通知で届きます。科学館もそれに参加されるとより周知が行き届き、良いと思います。

園でも10:00~11:00で子育て講座を開くことがありますが、どうしても10:00には集まれないという家もたくさんあり、ご家庭の苦勞を感じています。10:30になるとどんどん集まって来られると感じているところです。なので、11:00という時間設定は、おうちの方からすると良い時間なのではないかなと感じました。そして、天気の良い日は膳所公園に行こうかということにもなったり、近くでご飯を食べるということもできるので、一日の過ごし方を考えやすく、見通しを持てるだろうなと思います。

また、私事ですが、夏休みに親戚が集まり、大津市科学館のプラネタリウムを見に来ました。

そのとき3世代で来ている方々をたくさん目にしました。展示ホールにも入りましたが、琵琶湖ウォッチングを楽しんでいる子を見て喜ぶおじいちゃんおばあちゃんもいて、そういった時間を過ごせることで、また連れて行ってあげたいと感じる方も多いだろうと思います。私もまた大津市科学館に遊びに来たいと思います。

委員

私も園から、どうにか周知できないかなと考えております。先ほどQRコードでアンケートを取るのはどうかという話がありましたが、私自身そういったことが大変苦手です。オーロラ特別講演では来年度電子申請を始めるということですが、写真を見ているとお年寄りも多いかなと思うので、電子申請にすることで来館者数は減るのかなという心配も出てきました。往復はがきも残しながら、電子申請にするという形がいいのかなと思いました。

また、QRコードとなると大人の方は手軽にできるというのはわかるのですが、子どもの声を聞こうと思うと、付箋に書いて貼ってもらうという方法であれば、気軽に書くことができると思うし、誰かが貼っていたら、私も貼ろうかなとなる子も多いと思うので、そういったことができるのもまた楽しい科学館になるのかなと思いました。

わくわくサイエンスやサイエンス屋台村の様子を見てみるとすごく楽しそうだなと思うのですが、小学生くらいの子が多いかなと思いました。園でも、中秋の名月の時期には、月の満ち欠けの掲示をしたりするのですが、興味を持つ子は、すごく興味を持ちます。さらに、親目線で言うと、科学館は涼しい場所でもあると思うのですごく良い場所だと思います。幼稚園の子のことを考えると、科学の芽生えの時期でもあるので、園児をターゲットにしたものがあっても良さそうだと思います。

事務局

オーロラ特別講演については、確かに写真では年配の方が多く写っています。これまで年配の方が多かったのは事実なのですが、往復はがきが申し込み方法となると、若い世代の方にとっては抵抗があるところもあるようです。今年度来ていただいた方にアンケートを取ると、ほとんどの方が「電子申請に抵抗は無い」と回答されていて、数名「抵抗がある」方もおられました。なので、急に電子申請のみとするのではなく、別の申し込み方法でも可能としていきたいと思っています。

また、わくわくサイエンスについては「3歳以上が対象」という回もあり、おうちの方と一緒に参加していただくこともできるとしているのです、ぜひ幼稚園でも広めてもらえたら嬉しいです。よろしくお願いします。

委員

時間が迫っていますが、「予算の確保」についても触れておいた方がいいと思いますが、協議会にも、プラネタリウムの予算について考えてほしいと思っています。いろんな方の協力

を得ないと難しい話だと思います。以前に科学クラブ事業があり、その出身者で有名になった方がおられたかと思う。協議会としましては、これに向けて「頑張ってください。」としか言えないところもありますが、ぜひやり遂げてほしいなと思っております。他にも、話したいことがあるかもしれませんが、時間が来ておりますので、以上で協議と質疑を終わらせていただきます。

事務局

本日いただきました貴重なご意見は今後の科学館運営に生かしていきたいと思っております。ありがとうございました。